

TSUWANNO in 2019



津和野

つわの駅
島根県鹿足郡津和野町
大正11年開業

先立つは鯉泳ぐ城下町

島根県との県境になる船平山は、スキー場としても知られる。だが、ゲレンデに近い船平山駅は、沿線最高所の表示もなく、およそ観光駅とは言い難い、民家の軒先の停留所。ほとんど乗降も見られないまま、列車は長いトンネルを抜け、深い谷間をうねりながら、津和野の盆地へ駆け下りる。

谷越しの山腹に「津和野のおいなり」こと、太鼓谷稻成神社の豪壮な朱塗りの社殿が見えると、眼下に赤瓦の目立つ、これぞ石州という薨の波が連なり始め、一気に坂を下りきると津和野駅に着く。SLやまぐち号の終点であり、機関区跡

に転車台の残る広い構内は、山口駅よりも貫禄を湛える。

S Lが滞留するため煤で汚れやすいはずの駅舎だが、こまめに清掃されているようで、昭和五十年代の築になる和洋折衷のモダンな駅舎は、変わらずに津和野城下町への玄関という気品を保つ。駅舎脇には「デゴイチ」もモニユメントとして鎮座し、さながら駅が鉄道博物館であるかのよう。とはいえ、やはり津和野といえは、町割の水路を錦鯉が泳ぐ、城下町のそぞろ歩きにしくはない。実際にまち並みの賑わいは、駅の静けさからは想像もできないほど。飛騨高山ほどの規模はないにしても、鉄道利用の復権に対する津和野駅の役割には、まだまだ余力があるとみたい。



津和野城下町点景

TSUWANO in 2019